

# 環境経営ビジョン

2005年度の環境経営活動と今後の取り組み



代表取締役副社長  
カシオ環境保全委員会委員長

梶尾幸雄

カシオは「創造 貢献」の経営理念実現のため、環境経営活動を最優先課題として捉え、推進を行っています。その実践の仕組みとして「カシオ環境憲章」、「環境基本方針」を1993年1月に制定し、具体的な環境経営活動の実践のため、環境経営指針を「カシオボランタリープラン」に掲げ、2006年2月に第10版の改訂を行いました。

この中から、具体的な数値目標と実行期限を明確化した「カシオグループ環境行動目標“クリーン&グリーン21”」を制定し、グループ全体の中期行動計画として開示し、目標達成に向けて推進を行っており、2006年2月に第9版の改訂を行いました。

## 活動と成果

### 〔製品に関する活動と成果〕

製品に関する取り組みとして、「カシオグリーン商品」として、新たに114モデルが加わり、「C.G.P.70活動」もグリーン商品売上比率68%となりました。そこで目標より1年早い2006年度での目標達成に向けて、環境適合設計を強化してまいります。

また、包装材料総使用量削減は、梱包容積の最適化を図り、売上高原単位あたり22.6%削減いたしました。

欧州RoHS指令対応のため、2005年末までに特定有害物質の全廃を目標として推進してまいりましたが、お取引先を含む関係部門の方々の協力により、対応を完了いたしました。

### 〔事業所に関する活動と成果〕

事業所における取り組みでは、省エネルギー目標として実質生産高原単位※当たり2003年度対比で、2005年度10%削減を目標として推進してまいりましたが、TFT液晶事業における単価下落が影響し、5%増となりました。

廃棄物削減目標は、ゼロエミッション達成と、廃棄物発生量を生産高原単位で2000年度比30%削減を目標としていましたが、ゼロエミッションについてはカシオマイクロニクス(青梅)とカシオソフトが達成し、13拠点になり、生産高原単位は同等となりました。

有害物質の使用廃止目標として2005年度までに保管中のPCB

の無害化処理を行う計画でしたが、羽村技術センター、八王子技術センター保有分については、処理委託申請を完了し、甲府カシオ分については、北海道の処理施設での受入開始を待っている状況です。

## 今後の取り組み

### 〔製品に関する今後の取り組み〕

欧州のWEEE&RoHS指令対応に続き、北米、中国、日本、韓国にて法規制化が予定されている有害物質使用廃止への対応を確実に実施してまいります。また欧州におけるEuP指令\*、REACH指令\*といった法規制動向を確認し、製品対応におけるコンプライアンスを推進してまいります。

### 〔事業所に関する今後の取り組み〕

今年度より、海外の事業所に対する省エネルギー、省資源(生産拠点における水使用量の削減)、廃棄物削減を行動目標として新たに設定し、ワールドワイドな環境保全活動を展開してまいります。

国内では地球温暖化防止対策として、新たにデバイス事業拠点におけるCO<sub>2</sub>以外の温室効果ガスの削減のため、2010年の総排出量を2000年排出量以下とする行動目標を掲げ、京都議定書における削減目標実現のため努力してまいります。さらに、新しい目標である2010年度20%削減の達成に向けて、京都メカニズムとしてのCDM、排出権取引等の追加施策の検討を含め、実行してまいります。

### 〔CSR経営を目指して〕

カシオはCSR経営を積極的に推進しておりますが、新たな取り組みとして、「環境適合設計」についてはユニバーサルデザインを考慮した「CSR適合設計」として、また資材調達における「グリーン調達」は、お取引先のCSR対応状況を確認する「CSR調達」として実施するため、それぞれのガイドライン/基準書の作成と運用開始に向けた推進を行ってまいります。

詳細につきましては、本レポートをご参照ください。

※用語説明はP40参照。